

パーキンソン病や神経難病の リハビリテーション入院の ご案内

患者さんに、より質の良い生活を送っていただくために

パーキンソン病においては薬物療法の進歩のみならず、デバイス療法（脳深部刺激療法やレボドパ/カルビドパ配合剤持続経腸療法）も加わり、最近では平均余命も健常者にかなり近づいております。しかし、その一方で、ADL（日常生活動作）やQOL（生活の質）に関しては、健常者と比較して大きく低下していることが問題となっています。薬物療法だけではADLやQOLの改善が難しいことも多く、リハビリテーション（以下、リハビリ）を並行することが重要です。

当院では、パーキンソン病だけでなく、その他の神経難病患者さんに対してもリハビリテーション入院を提供しております。短期・集中的なリハビリと同時に薬剤療法や生活指導を行うことで、運動機能・ADLの改善と、QOLの向上を図っていきます。また、医師・看護師・薬剤師・リハビリセラピスト・栄養士・ソーシャルワーカーといった多職種で連携して、患者さんの抱えておられる問題を解決しながら、希望に沿った生き方を実現するお手伝いをさせていただきます。

洛和会音羽
リハビリテーション病院
脳神経内科

医長 松本 雄志



専門スタッフによるチーム医療

患者さんを中心としたチーム医療、地域のネットワークが重要で、院内他科との協力のみならず、開業医、医療介護施設などとも密接な連携をとり、「地域に開かれた、患者さん本位の脳神経内科」として、今後さらに努力したいと思っております。



看護部

安心してリハビリができるよう入院生活を支えます。



リハビリテーション部

快適な在宅生活が継続できるように、ご本人に適したリハビリを行います。



薬剤部

服用されている薬の説明や飲み方のアドバイスをします。疑問や悩みもご相談ください。



栄養管理室

リハビリを支える食事を提供します。退院後の食事についてのアドバイスもします。



洛和会 京都音楽療法 研究センター

症状の緩和や気分転換に効果的な音楽療法を、患者さんのニーズに合わせて実施します。



入退院支援相談室

ご本人の状態や希望に応じて、リハビリを継続できるサービスを調整します。





リハビリテーション入院とは

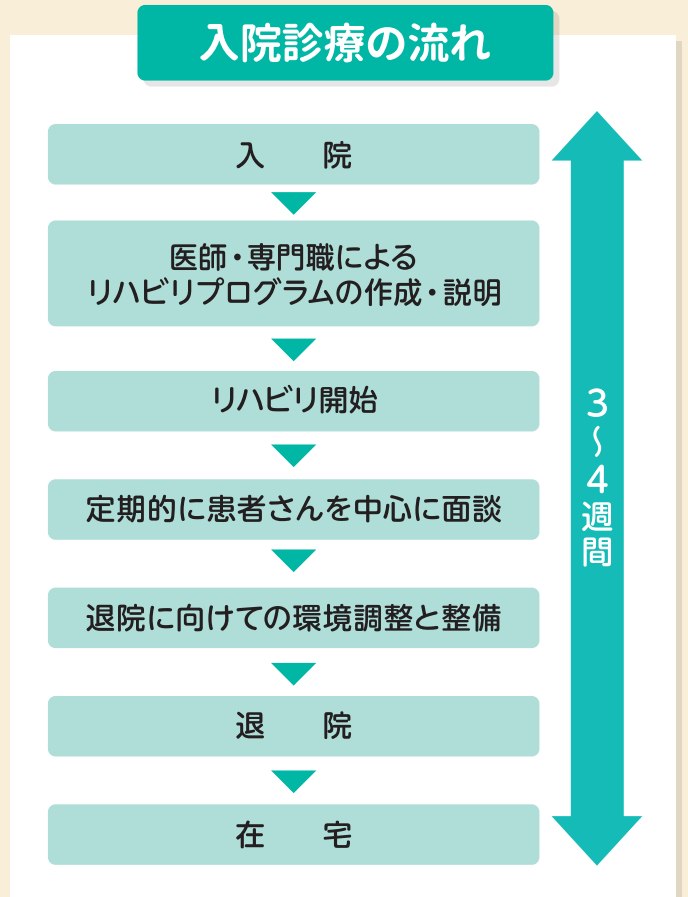
リハビリを中心とした短期入院をすることで、運動習慣を身に付け、動きやすい体づくりを目指します。また、多職種の専門スタッフが連携し、神経難病への理解を深めるための多角的なサポートを行います。



入院までの流れ



入院診療の流れ



担当医



院長
木村 透



医長
松本 雄志

ご相談いただける
対象疾患

パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底変性症、大脳皮質基底核症候群、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脊髄小脳変性症、重症筋無力症、多発性硬化症、多系統萎縮症、その他の神経難病

詳細はこちらでご確認いただけます。



<http://www.rakuwa.or.jp/otowareha/shinryoka/shinkei/>

洛和会音羽リハビリテーション病院
地域連携課

業務時間 月～土曜日 午前8時30分～午後5時15分

連絡先
TEL 075 (581) 6868 直通
FAX 075 (581) 6110